

内なる基準からの研究倫理教育

○稲岡 美恵子（鳥取大学 研究推進機構）

1. はじめに

2017年度の理工系の大学院生新入生ガイダンスとして「研究倫理教育」の講演をしてほしいという要請がありました。注1「はい」と単純にお引き受けしたものの、眠たくならず、また「そんなことしないよ」という拒絶反応がでないように研究倫理をどのように学生に教えたらいのか困ってしまいました。

2. 研究倫理教育の現状

2014年8月文部科学省は「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」注2を決定し、その中で、不正行為の事前防止のための取組として、研究倫理教育の実施による研究者倫理の向上と、日本学術会議等と連携し、研究倫理教育に関する標準的なプログラムや教材の作成を推進することを掲げています。

しかしながら、2018年4月の朝日新聞記事『防げ研究不正、大学の一手 チラシ題材、見破る授業・背景も議論』注3には、「東京大分子細胞生物学研究所や京大iPS細胞研究所など、著名な機関で研究をめぐる不正が相次いでいる。国は大学や研究機関に対して、ビデオ教材などによる不正防止教育を求めているが、効果はいま一つだ。そうした中、危機感を募らせた大学の間では、学生たちが不正に手を染めないようにと、独自の教育プログラムを取り入れる試みが広がり始めている。（中略）日本では文部科学省が、国の研究費を受ける条件として、不正防止教育を大学などに課している。ただ、ビデオ教材を視聴する「eラーニング」が中心で、不正防止には不十分との指摘は多い。」とあります。

3. 『研究の心得～研究倫理入門～』と題して

研究倫理教育の講演は、以下の3つの構成をとりました。

- (1) 倫理とは
- (2) 研究室に所属して研究を進めるために心得ておく基本事項
- (3) ある研究室の出来事「何が問題なの？」

やっではないけなことを一方的に教えるのではなく、設問を投げかけて、まず個人で考える。次にグループ討議をして、発表する。その後、資料を提示して、さらに考える。という講義形態を取りました。

本稿では、(1)倫理とはの項目で実施した内容について述べます。

東洋大学の創立者は哲学者の井上円了です。円了は「諸学の基礎は哲学にあり」という考えのもと明治時代の同時期に開学した私立学校の多くが実学をベースにした教育を行う中、哲学を基盤とする教育を行いました。

そこで、東洋大学ならではのとして、『ちょっと哲学してみる』を試みました。

設問 1

「鉄腕アトム」と「ドラえもん」知っていますか。
「鉄腕アトム」と「ドラえもん」はどんなロボットですか（共通点は？）



資料 1

AI学会倫理指針「AI自身も遵守を」注4

研究者が備えるべき倫理性を、人工知能自身にも求めたのが特徴だ。技術が進歩し、「人工知能が人工知能を作り出す」時代の到来を見越した。（中略）最終の第9条で「人工知能が社会の構成員またはそれに準じるものとなるためには、（中略）学会員と同等に倫理指針を遵守できなければならない」とした。

設問1は、ロボットが感情を持つのは、マンガの世界の中でのことではなくなってきており、AIにも「倫理」を求める時代であることを示して、研究倫理を考える糸口としました。

資料2-1

「倫理」を辞書で調べました。
広辞苑第6版(岩波書店)「人倫のみち。実際道德の規範となる原理。道德」
新明解国語辞典第7版(三省堂)「行動の規範としての道德観や善悪の規準」
国語辞典第11版(旺文社)「社学生活において、人として守るべき道。 道德。モラル」

設問2

辞書では「倫理」と「道德」という言葉が出てきます。
「倫理」と「道德」の違いは？

資料2-2

哲学を専門用語を使わず日常の言葉で表す「哲学エッセイ」というジャンルを確立した池田晶子さんの「道德と倫理」^{注5}を紹介しました。

『外なる規範としての道德は、常に、「べき」と「せよ」とか「ねばならね」等の規則や戒律の形をとる。したがって、それを行為する者には必ず強制や命令として感じられる。これに対して、内なる規範としての倫理は、たんに「そうしたい」という自ずからの欲求である。たとえば、「悪いことをしてはいけないからしない」、これは道德であり、「悪いことはしたくないからしない」、これが倫理である。「善いことはしなければいけないからする」、これが道德であり、「善いことをしたいからする」、これが倫理である。』

設問2の狙いは、研究不正は監視や管理を強化すれば防げるものではなく(他律的なものではなく)、自分の研究を自分で裏切らないようにするという内なる規準が大切であること(自律的なものである)を認識してもらうことです。

あなたはどんな研究者でありたいですか？

「研究室に所属すると、あなたは一研究者として研究活動に取り組みます。あなたの研究は、世界的な研究へとつながる可能性をもっています。」と研究の楽しさと広がり伝え、最後のスライドとして、自分の将来像を想像してもらい、終わりとなりました。

4. おわりに

大学院生新入生ガイダンスの「研究倫理教育」において、誇れる研究者像に近づくことに価値を見出す「志向倫理」を『ちょっと哲学してみる』で試みました。しかし、学生の意識を高めるための講義内容と教材の作成、さらには次年度での改良が難しく、今後の課題です。

注1) 2017～2019 年度 東洋大学川越キャンパスの理工系大学院生(理工学、情報学、学際融合科学)約 100 名
2019 年度は白山キャンパスで文系大学院生(文学、社会学、法学経営学、経済学、国際学、国際観光学、社会福祉学)約 40 名の講演も実施しました。

注2) 2014 年 8 月 26 日 文部科学大臣決定

注3) 朝日新聞 2018 年 4 月 12 日

注4) 朝日新聞 2017 年 3 月 1 日

注5) 『私とは何か さて死んだのは誰なのか』 135 頁 「『徳目教育』の可能性と不可能性」 講談社